

S X 11(女性・老年)

頭蓋、遊離歯および四肢骨が残存していた。

1. 頭蓋

右側側頭骨、右側頭頂骨および後頭骨の右側部が残っていた。乳様突起はやや小さい。右側外耳道が観察できたが、骨腫は存在しない。外後頭隆起の発達は良さそうである。ラムダ縫合の右側部の一部と右側後頭乳突縫合が観察できたが、両縫合とも内外両板が分離している。また、右側下顎枝が残っていた。径はやや大きい。

2. 歯

遊離歯が1本残っていた。これは上顎右側の側切歯である。

3. 四肢骨

① 上腕骨

右側上腕骨体が残存しており、骨体最小周のみが計測できた。骨体最小周は57mm(右)で、径は小さいが、三角筋粗面の発達は良好である。

② 大腿骨

大腿骨は右側骨体遠位部の後面が、左側は骨体近位部が残存していた。両側ともほとんど計測はできないが、骨体の径は大きくない。

③ 脛骨

脛骨は左側骨体が残存していた。前縁は丸くて、鋭くないが、骨間縁は著しく発達しており、骨体の径もやや大きい。

④ 腓骨

腓骨は左側骨体の遠位部の一部にすぎない。

4. 性別・年齢

脛骨の径が大きく、外後頭隆起の発達も良さそうなことは男性的であるが、上腕骨と大腿骨は径が小さく、これは女性的である。本例は性別判別にもっとも苦しんだが、本墓には墓碑が残っており、その墓標に刻まれた戒名が「釈尼了吾正位」とあるので、本人骨は女性と思われる。享年は72歳であるが、高齢だった兆候は人骨からは読みとれない。

S X 13(男性・年齢不明)

左側の大腿骨と脛骨が残っていたにすぎない。

1. 大腿骨

左側骨体の後面が残っていた。計測はできないが、骨体は横径よりも矢状径が大きく、また粗線の発達もきわめて良好で、骨体の径は大きい。

2. 脛骨

左側骨体中央部の一部が残っていた。栄養孔位での計測が可能であった。ヒラメ筋線の発達はよくないが、骨体の径は大きい。

3. 性別・年齢

性別は、大腿骨体と脛骨体の径が大きいことから、男性と推定したが、年齢は不明である。

S X 15(性別・年齢不明)

遊離歯3本と四肢骨の一部が残っていたにすぎない。遊離歯は上顎右側第二小臼歯、上顎左側第三大臼歯および下顎右側第二小臼歯で、咬耗度はBrocaの1度(咬耗がエナメル質のみ)である。四肢骨片はおそらく大腿骨の骨体の一部であろう。性別・年齢不明である。

S X 17(男性・年齢不明)

頭蓋の一部と四肢骨が残っていた。

1. 頭蓋

頭蓋は右側の乳様突起で、乳様突起はかなり大きく、乳突上稜はよく発達している。

2. 四肢骨

(1) 上肢骨

左側肩甲骨、上腕骨、右側橈骨、左右の尺骨が残存していた。肩甲骨は肩甲棘の基部が残っていたにすぎない。

① 上腕骨

左右不明の骨頭と左側骨体の一部である。骨頭の径はかなり大きい。

② 橈骨

右側骨体の中央部が残存していた。骨間縁は鋭く突出しており、径はかなり大きい。

③ 尺骨

両側の骨体の一部が残存していた。径は大きい。

(2) 下肢骨

① 脛骨

右側骨体が残存していた。骨体の断面形はヘリチカのII型を呈している。

計測値は、中央最大径が32mm(右)、中央横径は20mm(右)で、中央断面示数は62.50(右)となり、骨体は扁平である。骨体周は84mm(右)、最小周は76mm(右)で、骨体は太い。

② 腓骨

左側骨体の一部が残存していた。径は大きく、稜線は鋭く、溝も深い。

3. 性別・年齢

性別は、乳様突起や四肢骨の径がかなり大きいことから、男性と推定したが、年齢は不明である。

S X 19(男性・壮年)

頭蓋と四肢骨が残っていた。残存部分を図2に示した。

1. 頭蓋

プレグマを中心として、前頭骨と左右の頭頂骨が残存していた。頭蓋の径はやや大きそうである。冠状縫合の観察ができたが、内外両板とも開離している。

下顎体が残存していた。計測はできないが、径は大きい。

2. 歯

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／／／ 5 ／／ 2 1	1 ／ 3 4 ／／／ 8
／／ ● 5 4 ③ 2 ①	1 2 ／／／／／／

【●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 ▼：先天的欠損 ■：未萌出 ／：不明、番号は歯種】

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

咬耗度はBrocaの1～2度である。歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

① 上腕骨

両側の骨体が残存していたが、計測ができたのは左側のみである。骨体は著しく大きく、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、中央最大径が24mm(左)、中央最小径は17mm(左)で、骨体断面示数は70.83(左)となり、骨体は扁平である。中央周は70mm(左)で、骨体は大きい。

② 橈骨

両側の骨体が残っていたが、計測は左右ともできない。骨体の径は大きい。

③ 尺骨

左右とも残存していたが、左側の方が残りがよい。骨体は大きい。

(2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、脛骨および腓骨が残存していた。

① 寛骨

左右とも比較的保存状態はよく、大坐骨切痕の角度は小さい。

② 大腿骨

両側とも残存していたが、左側の方が残りがよい。計測は左右ともできないが、骨体の径は大きく、右側の粗線の発達はきわめて良好で、骨体両側面も後方へ突出している。

③ 脛骨

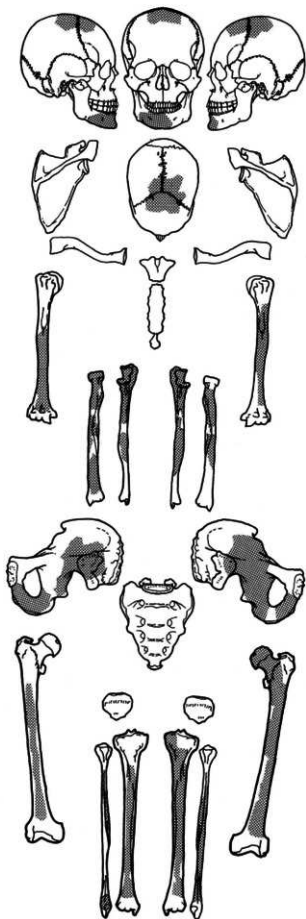
両側とも骨体が残っていたが、左側の方が保存状態は良好である。左側のヒラメ筋線の発達は良好で、後面には弱い隆線が認められる。左側骨体の断面形はヘリチカのII型を呈している。計測は両側ともほとんどできないが、骨体の径はかなり大きい。

④ 腓骨

両側とも残っているが、左側の方が残りがよい。骨体の径は大きく、稜の発達は良好で、溝も深い。

4. 性別・年齢

性別は、大坐骨切痕の角度が小さいことから、男性と推定した。年齢は、冠状縫合の内外両板が分離していることから、壮年と考えられる。



中山S X 19 (男性・壮年)

図2 人骨の残存部、アミかけ部分

(Fig.2. Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)

考 察

計測ができた男性の上腕骨、大腿骨および脛骨について周辺地域の近世人骨との検討をおこなってみた。

1. 上腕骨

表4は男性上腕骨の比較表である。表4には鹿児島県、熊本県の例を挙げたが、これ以外の地域との検討もおこなってみた。計測ができたのはわずか1本(左)である。まず、骨体の大きさを中央周と比較してみると、本例の中央周は70mmで、この値は大きい方である。表4では桑島、成岡・西ノ平について大きく、他の資料よりはかなり大きく、本例は骨体がかなり太いことがわかる。筆者が報告した人骨では沖縄県北谷町の後兼久原人が75mmもあり、この例がもっとも大きい。他には広島県の古市近世人の71mmがあるぐらいで、中央周が70mmを超える例はきわめて稀である。上肢をよくつかっていたことを物語っている。

骨体断面示数は70.83で、この示数値は成岡・西ノ平の1例と一致し、表4では最小値となり、骨体は扁平である。

表4 上腕骨計測値(男性、右、mm)

(Table4. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

		中山		松之尾		成岡・西ノ平		桑島		蔵城		鷹ノ原城		
		近世人		中・近世人		中・近世人		近世人		近世人		近世人		
		宮崎県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	
		SX19	(松下)	(松下・他)	(松下・他)	(立志)	(松下)	(松下)	(松下)	(松下)	(松下)	(松下)	(松下)	
		左	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
5.	中央最大径	24	6	21.33	1	24	16	22.00	2	20.50 (左)	2	22.50		
6.	中央最小径	17	6	15.83	1	17	16	16.69	2	16.00 (左)	2	17.00		
7.	骨体最小周	-	17	60.24	1	66	15	66.22	1	56 (左)	2	62.50		
7(a).	中央周	70	6	62.00	1	71	15	71.28	2	62.00 (左)	2	66.00		
6/5	骨体断面示数	70.83	6	74.44	1	70.83	16	75.90	2	77.98 (左)	2	75.50		

2. 大腿骨

表5は男性大腿骨の比較表である。大腿骨の例はかなりの多いので、表5では宮崎県、鹿児島県および熊本県の例だけを挙げた。本遺跡では左右各1本ずつが計測できた。まず、骨体中央周で骨体の大きさをみてみることにする。本例の場合は1本(SX7)しか計測できなかったが、骨体中央周は92mmもあり、骨体はかなり太い。近世人で骨体中央周が90mmを超える例は珍しいが、宮崎学園都市堂地東では106mmもあり、本例よりもさらに大きい。しかし、同じ宮崎県でも小林市の水落では84mmで、これはそれほど大きな値ではない。表5では鹿児島県の成岡・西ノ平の90.33mmしかなく、次いで熊本県の川田京坪の89.67mmに近い。地域を広げてみると、長崎県の楼階田(98mm)、広島県の大谷(96mm)、成岡(101mm)、西本(92mm)、古市(101mm)、愛媛県の矢田平山(91.17mm)、三重県の勢武谷経塚(93mm)が90mmを超えて、骨体が太い。

骨体中央断面示数で骨体の形態をみてみると、本例は107.14となり、近世人としてはこの示数値は大きい方で、粗線の発達が良好で、骨体の両側面は後方へ発達している。本例の示数値は桑島の107.09に

もっとも近く、表5ではその他の資料よりは大きい。

すなわち、中山近世人の大腿骨は骨体の径がかなり大きく、粗線や骨体両側面の発達も良好な大腿骨なのである。

表5 大腿骨計測値(男性、右、mm)

(Table5. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	中山		豊前		未渡		松之尾		成岡・西ノ平		桑島		藏城		頭地松本B		鷹の原城		
	近世人		近世人		近世人		中・近世人		中・近世人		近世人		近世人		近世人		近世人		
	宮崎県	宮崎県	宮崎県	宮崎県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	
8.	30	33	36	11	36.53	3	38.90	14	36.39	2	36.00 (左)	1	25 (左)	3	38.47	1	38	5	38.00
7.	28	34	28	11	25.64	4	29.00	14	24.66	2	27.50 (左)	1	25 (左)	3	28.33	1	27	6	27.67
8.	92	106	84	11	82.84	3	96.33	14	86.61	2	85.00 (左)	1	81 (左)	3	89.67	1	87	5	88.00
9.	-	-	-	-	-	4	33.25	14	29.59	3	30.90 (左)	1	31	-	-	-	7	31.57	
10.	-	-	-	-	-	2	26.90	15	23.91	3	23.33 (左)	1	24	-	-	-	7	24.71	
6/7	107.14	97.66	92.88	11	104.03	5	98.12	14	107.99	2	95.00 (左)	1	100.00 (左)	3	102.59	1	103.70	5	102.28
10/9	-	-	-	14	77.35	2	79.98	14	77.90	3	77.96 (左)	1	77.42	3	83.76	1	77.42	7	78.47

3. 脛骨

表6は男性脛骨の比較表である。脛骨でも鹿児島県と熊本県の例を挙げてみた。脛骨は3体分、3本の計測ができた。まず、骨体周と最小周で骨体の大きさを比較してみると、本例は前者は84mm(SX17)もあり、後者も76mm(SX17)で、脛骨体は大きい。この両計測値はともに普濟院跡の1例(84mm)の値に一致し、表6ではもっとも大きな値となり、骨体が太いことがわかる。骨体周が大きな例を地域を広げて探してみると、長崎県の田原(85mm)、福岡県の普濟院跡(84mm)、山口県の大河浜(83.50mm)、広島県の大谷(84mm)、西本(83mm)、古市(91mm)がある。中央断面示数で、骨体の形態をみみると、本例は62.50となり、近世人としては珍しく骨体は扁平である。表6では最小値となるが、表6に掲げた資料はすべて70.00を超えており、脛骨体には扁平性はみられないのである。本例と同じくらい小さな値を示す近世人脛骨は山口県の堤迫(62.96)ぐらいしかない。

すなわち、中山近世人の脛骨も上腕骨、大腿骨と同じように、骨体は大きく、しかも扁平な脛骨なのである。

表6 脛骨(男性、右、mm)

(Table6. Comparison of measurements and indices male right tibiae)

	中山		中山		成岡・西ノ平		桑島		藏城		頭地松本B		鷹の原城	
	近世人		近世人		中・近世人		近世人		近世人		近世人		近世人	
	宮崎県	宮崎県	宮崎県	宮崎県	鹿児島県	鹿児島県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県
8.	33	32	-	1	29 (左)	19	27.02	3	27.33 (左)	1	27	2	29.00	
8 a.	-	-	35	1	31 (左)	19	-	2	30.00 (左)	-	-	1	31 (左)	
9.	-	20	-	1	23 (左)	19	20.18	4	20.25 (左)	1	20	2	22.00	
9 a.	24	-	24	1	24 (左)	-	-	3	22.00 (左)	-	-	1	20 (左)	
10.	-	84	-	1	81 (左)	19	80.36	3	75.67 (左)	1	76	2	80.50	
10 a.	91	-	91	1	88 (左)	19	88.96	2	82.50 (左)	-	-	1	81 (左)	
10 b.	-	76	-	1	70 (左)	18	73.47	3	72.33 (左)	-	-	2	72.50	
9/8	-	62.50	-	1	79.31 (左)	19	74.89	3	72.00 (左)	1	74.07	2	76.07	
9a/8a	72.73	-	68.57	1	77.42 (左)	18	77.90	2	70.00 (左)	-	-	1	64.52	

表7 上腕骨 (mm) (Humerus)

	中山	中山
	SX11 女	SX19 男
1. 上腕骨最大長 (右)	—	—
2. 上腕骨全長 (右)	—	—
3. 上腕骨 (右)	—	—
3(1). 横上徑 (右)	—	—
4. 上端徑 (右)	—	—
5. 中央最大徑 (右)	—	—
6. 中央最小徑 (右)	—	24
7. 骨体最小径 (右)	—	17
7(a). 中央洞 (右)	37	—
8. 頭周 (右)	—	70
9. 頭最大横徑 (右)	—	—
10. 頭最大矢状徑 (右)	—	—
11. 滑車徑 (右)	—	—
12. 小頭徑 (右)	—	—
12(a). 滑車徑および小頭幅 (右)	—	—
13. 滑車環 (右)	—	—
14. 肘頭寬幅 (右)	—	—
15. 肘頭寬度 (右)	—	—
6/5 骨体断面示数 (右)	—	70.83
7/1 長厚示数 (右)	—	—

表10 大腿骨 (mm) (Femur)

	中山	中山	中山
	SX7 男	SX11 女	SX17 男
1. 最大長 (右)	—	—	—
2. 自然位全長 (右)	—	—	—
3. 最大軀子長 (右)	—	—	—
4. 自然位軀子長 (右)	—	—	—
5. 骨体中央矢状徑 (右)	—	—	—
6. 骨体中央横徑 (右)	28	—	—
7. 骨体中央洞 (右)	92	—	—
8. 骨体上横徑 (右)	—	28	—
9. 骨体上矢状徑 (右)	—	23	—
10. 頸直徑 (右)	—	—	—
11. 頸矢状徑 (右)	—	—	30
12. 頸周 (右)	—	—	24
13. 頸最大横徑 (右)	—	—	90
14. 頸最大矢状徑 (右)	—	—	45
15. 頸横徑 (右)	—	—	96
16. 頸周 (右)	—	—	146
17. 上脛幅 (右)	—	—	—
8/2 長厚示数 (右)	—	—	—
6/7 骨体中央断面示数 (右)	107.14	—	—
10/9 上骨体断面示数 (右)	—	75.57	—

表8 橈骨 (mm) (Radius)

	中山
	SX17 男
1. 最大長	—
1 b. 平行長	—
2. 機能長	—
3. 最小径	—
4. 骨体頭徑	20
4 a. 骨体中央横徑	18
4 (1). 小頭横徑	—
4 (2). 指横徑	—
5. 骨体矢状	13
5 a. 骨体中央矢状徑	13
5 (1). 小頭矢状徑	—
5 (2). 小頭周	—
5 (3). 頭周	—
5 (4). 頭周	—
5 (5). 骨体中央洞	32
5 (6). 骨下端徑	—
3/2 長厚示数	—
3/4 骨体断面示数	65.00
3a/4a 中央断面示数	72.22

表11 脛骨 (mm) (Tibia)

	中山	中山	中山
	SX13 男	SX17 男	SX19 男
1. 脛骨全長 (右)	—	—	—
1 a. 脛骨最大長 (右)	—	—	—
1 b. 脛骨長 (右)	—	—	—
2. 脛距間距離 (右)	—	—	—
3. 最大上端幅 (右)	—	—	—
3 a. 上内關節面幅 (右)	—	—	—
3 b. 上外關節面幅 (右)	—	—	—
4 a. 上内關節面徑 (右)	—	—	—
4 b. 上外關節面徑 (右)	—	—	—
5. 最大下端幅 (右)	—	—	—
6. 下端矢状徑 (右)	—	—	—
7. 中央最大徑 (右)	—	—	—
8. 中央最大徑 (右)	—	—	32
8 a. 栄養孔位最大徑 (右)	—	—	35
9. 中央横徑 (右)	—	—	20
9 a. 栄養孔位横徑 (右)	—	—	24
10. 骨体洞 (右)	—	—	84
10 a. 栄養孔位周 (右)	—	—	91
10 b. 最小洞 (右)	—	—	76
9/8 中央断面示数 (右)	—	—	62.50
9a/8a 栄養孔位断面示数 (右)	—	—	—
10b/1 長厚示数 (右)	72.73	—	68.57

表12 腓骨 (mm) (Fibula)

		中山 SX17 男 左	中山 SX19 男 左	中山 SX10 女 左
1.	最大長	—	—	—
2.	中央最大径	16	17	13
3.	中央最小径	11	11	8
4.	中央周	46	46	35
4 a.	最小周	—	—	26
4 b.	頸横径	—	—	7
4 c.	頸矢状径	—	—	8
4(1).	上端幅	—	—	—
4(1a).	上端矢状幅	—	—	—
4(2).	下端幅	—	—	—
4(2a).	下端矢状幅	—	—	—
3/2	中央断面示数	68.75	64.71	61.54
4a/1	長厚示数	—	—	—

4. 墓碑銘と人骨所見

① 性別について

今回調査された近世墓には墓碑が残っているものがあり、なかには墓碑銘も判読できるものもあった。このようなケースは人骨から性別を判別したり、年齢を推定する際の重要な指標を与えてくれることになるので、調査例としては貴重である。今回は人骨からの性別判別や年齢推定がどの程度正確かを判断するために、最初は墓碑銘や副葬品をまったく参照しないで、人骨の特徴だけから性別と年齢を推測して、その結果が墓碑銘と一致するか否かを検証してみた。その結果、人骨から男性と推定されたSX3、SX4、SX7、SX8、SX17、SX19については、人類学の訓練を受けた者なら100%男性と推測できる人骨で、これらは墓碑銘の性別と一致し、またSX10も人骨から容易に女性と推測できる人骨であった。しかし、SX11については、乳様突起が小さいこと、上腕骨体が細いこと、大腿骨体が細いこと、脛骨前縁が鋭くないことは女性人骨を予想させたが、外後頭隆起の発達が良いこと、下顎骨の径がやや大きいこと、脛骨の骨間縁の発達が著しく良好で、骨体の径が大きいことは男性人骨を思わせ、今回性別判別がもっとも困難を極めた例であった。脛骨の骨間縁が著しく発達していたことを重視し、いったん男性人骨と推測してしまったが、墓碑銘から被葬者は女性と判断されることを受けて、再度検討してみた。脛骨の骨間縁が著しく発達していること以外は女性的であることから、本人骨を女性人骨と考えても差し支えないようである。従って、本人骨を女性とした。

以上のように、性別については1例について、もし墓碑銘が残っていなかったら、結果的に性別判別を誤ってしまっていたかもしれない。

② 年齢について

SX5では、頭蓋に幼小児を思わせるような特徴はなかったので、年齢不明の女性骨と推定したが、墓碑銘には「妙英童女」とあり、被葬者は女の子であるらしい。しかし、人骨を再度検討してみたが、頭

蓋壁は厚く、これはどうみても幼児骨の頭蓋ではない。童女のイメージは全くないのである。成人に達していないとすれば、年齢は20歳前の成年(16歳～20歳)なのであろうか。

その他に墓碑銘から享年を知ることができた例が5例ある。それはSX 2、SX 3、SX 7、SX 11、SX 13である。

墓碑に刻まれていた年齢は数え歳であろう。そのうちSX 2は保存状態が悪く、残っていたのは大腿骨片1片のみであったから、人骨から年齢を推測することはできなかった。SX 3は縫合の閉鎖状態から熟年と思われるが、墓碑銘によれば享年58歳とあり、人骨から推定した年齢はこれと矛盾しない。SX 7は縫合の閉鎖状態から老年と推定したが、享年は88歳で、これも人骨からの推定年齢は矛盾していない。問題はSX 11で、これは享年72歳となっている。頭蓋の残り具合が悪く、縫合はラムダ縫合の右側部の一部と右側後頭乳突縫合のみしか観察できなかったが、いずれも内外両板は分離していたので、この部分だけの縫合の分離状態から年齢を推定するとすれば、壮年という判断を下さざるを得ない。ラムダ縫合の癒合は一般的には冠状縫合や矢状縫合に比較してもっとも遅れるようであるから、本例では72歳の老年になってもラムダ縫合がまだ内外両板もと分離していたのであろう。このSX 11については、性別別についても苦しんだ人骨でもある。

このように年齢についても1例ではあるが、墓碑銘が残っていなかったら、年齢を誤って推測していた恐れがある。

要 約

宮崎県日向市大字塩見字上ノ坊にある中山遺跡の発掘調査が2002年(平成14年)におこなわれ、28基の近世墓が検出され、そのうちの13基から人骨が出土した。人骨の保存状態は悪く、残存量は多くはないが、人類学的観察と計測をおこない、以下のような興味ある所見を得た。

1. 13体の人骨のなかには明らかに幼児骨と推測されるものは存在しない。SX 5は墓碑銘からは未成人のようであるが、人骨は幼児骨ではないので、一応13体すべてを成人骨としておきたい。13体の人骨のうち、男性骨は7体、女性骨は3体で、残りの3体は性別不明である。
2. この13体は大部分が近世に属する人骨と推測されている。
3. 頭蓋の保存状態が悪く、頭型や顔面の特徴は知ることができなかった。
4. 1体の(SX 8)人骨の墓壇内から鳥骨1片が検出された。
5. 四肢骨の計測や観察ができたのは主に男性で、上腕骨は骨体が太く、扁平であった。大腿骨も脛骨も骨体は太く、大腿骨は粗線や骨体両側面の後方への発達が良好で、脛骨体は扁平であった。このような傾向は今回出土した人骨に共通してみられた。本遺跡では墓石が残っているものがあり、性別や享年を知ることができるものもあったが、四肢骨が太い個体は僧侶だったことが推測されている。人骨からみればかなり体格がよく、しかも筋肉を鍛えていたと推測される。このような身体的特徴と僧侶という職業がどのように結びつくのが判然としないう。

宮崎県では小林市の水落遺跡以来、近世人骨の出土が途絶えていたが、2002年になって近世人骨が相次いで出土した。本例は残存量こそ少なかったが、計測や観察ができるものがあり、四肢骨の特徴を把握することができた。男性たちは四肢骨の径が大きく、生前はたくましい体格の持ち主であったようである。このような体格は僧侶という職業からは推測しにくい。この被葬者たちははじめから僧侶だったのだろうか、それとも僧侶というのは彼らの最終的な職業だったのであろうか。

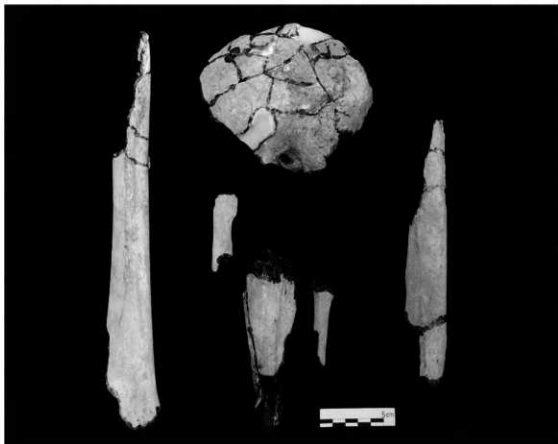
謝 辞

拙筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた宮崎県埋蔵文化財センターの皆様方に感謝致します。

《参考文献》

1. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd. 1. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart: 429-597.
2. 松下孝幸・他、1980a: 熊本県川田京坪遺跡出土の近世人骨。車塚古墳・川田京坪遺跡・川田小筑遺跡・塩塚古墳(熊本県文化財調査報告46) 付: 1-17
4. 松下孝幸・他、1980b: 熊本県興善寺四郎丸遺跡出土の近世人骨。興善寺 I (熊本県文化財調査報告45): 61-68
5. 松下孝幸、1981: 鹿児島県松之尾遺跡出土の人骨。松之尾遺跡(枕崎市松之尾土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書(1)): 215-228.
6. 松下孝幸・他、1982: 宮崎学園都市牧地東遺跡出土の近世人骨。宮崎学園都市埋蔵文化財調査概報(Ⅲ): 47-55.
7. 松下孝幸・他、1983: 成岡・西ノ平遺跡出土の中世・近世人骨。成岡・西ノ平・上ノ原遺跡(鹿児島県埋蔵文化財調査報告書28): 355-382.
8. 松下孝幸・他、1985: 長崎県松浦市樓階田遺跡出土の近世人骨。樓階田遺跡—松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—(長崎県文化財調査報告書第76集): 191-196.
9. 松下孝幸・他、1992a: 北九州市上清水遺跡出土の近世人骨。上清水遺跡V区(奈良時代以降編)(北九州市埋蔵文化財調査報告書第117集): 416-441.
10. 松下孝幸・他、1992b: 東広島市古市遺跡出土の近世人骨。西城第一土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書 I (広島県教育委員会文化財調査報告書第21集): 105-126.
11. 松下孝幸、1993: 北九州市京町遺跡出土の近世人骨。京町遺跡(北九州市文化財調査報告書第59集): 177-248.
12. 松下孝幸・他、1994: 山口県豊北町大河浜遺跡出土の人骨。大河浜遺跡(山口県埋蔵文化財調査報告書第165集): 11-21.
13. 松下孝幸、1995: 北九州市宗玄寺跡出土の近世人骨。宗玄寺跡(北九州市埋蔵文化財調査報告書第172集): 502-542.
14. 松下孝幸、1996a: 北九州市普濟院跡出土の近世人骨。折尾横穴群内普濟院跡: 95-121.
15. 松下孝幸、1996b: 長崎県有川町頭ヶ島白浜遺跡出土の近世人骨。頭ヶ島白浜遺跡(有川町文化財調査報告書第1集): 67-87.
16. 松下孝幸、1997a: 柳井市鳥越遺跡出土の近世人骨。鳥越遺跡発掘調査報告—和田山浄水場配水池建設に伴う発掘調査—: 6-12.
17. 松下孝幸、1997b: 福岡県厚川町古川平原古墳出土の古墳時代・近世人骨。古川平原古墳群(厚川町文化財調査報告書第5集): 82-98.
18. 松下孝幸、1997c: 宮崎県の古人骨。宮崎県史、通史編原始古代1: 784-794.
19. 松下孝幸、1997d: 広島県三次市掃海寺谷遺跡出土の近世人骨。県営ほ場整備事業(川西東部・南部地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第157集): 131-135.
20. 松下孝幸、1998a: 山口県豊北町場迫・道祖ノ本遺跡出土の近世人骨。場迫・道祖ノ本遺跡(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第15集): 37-59.
21. 松下孝幸、1998b: 山口県阿知須町神正遺跡出土の近世人骨。赤迫遺跡B地区発掘調査報告(阿知須町埋蔵文化財発掘調査報告書第15集): 116-122.

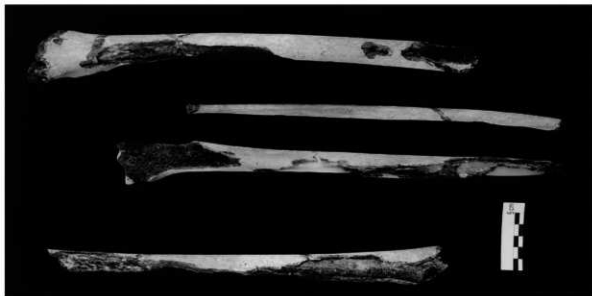
22. 松下孝幸、1998c：北九州市下剱津近世墓出土の火葬骨。下剱津近世墓-福岡県北九州市所在の下剱津近世墓の発掘調査報告書：9-11.
23. 松下孝幸、1998d：広島県庄原市一の谷第7号古墳出土の近世人骨。一の谷第6・7号古墳(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第170集)：47-50.
24. 松下孝幸、1999a：北九州市常盤橋西勢溜り跡出土の近世・近代人骨。常盤橋西勢溜り跡(北九州市埋蔵文化財調査報告書第229集)：付論1-12.
25. 松下孝幸、1999b：熊本県五木村頭地松本B遺跡出土の近世人骨。頭地松本B遺跡(熊本県文化財調査報告第173集)：83-97.
26. 松下孝幸、1999c：熊本県球磨郡錦町蔵城遺跡出土の近世人骨。蔵城遺跡(熊本県文化財調査報告第172集)：96-123.
27. 松下孝幸、2000：愛媛県今治市矢田平山近世墓出土の近世人骨。阿方春岡遺跡・阿方牛ノ江遺跡・矢田八反坪遺跡・矢田大出口遺跡・矢田平山近世墓・矢田平山古墳・矢田平山遺跡(一般国道196号今治北道路埋蔵文化財調査報告書(埋蔵文化財発掘調査報告書第88集)：271-318.
28. 松下孝幸、2002：北九州市京町遺跡第3地点出土の近世人骨。北九州市京町遺跡第3地点(北九州市生往寺境内発掘調査報告)：99-140.
29. 松下孝幸、2003：熊本県南関町鷹ノ原城出土の近世人骨。鷹ノ原城跡(熊本県文化財調査報告第212集)：45-69.
30. 松下孝幸、宮崎県高鍋町野首第1遺跡出土の近世人骨(未報告).
31. 松下孝幸、宮崎県延岡市吉野遺跡出土の近世人骨(未報告).
32. 中橋孝博、1987：福岡市天福寺出土の江戸時代人頭骨。人類誌、95：89-106.
33. 佐伯和信、他、1992：宮崎県小林市水落遺跡出土の近世人骨。小林市文化財報告書第5集：付篇1-20.
34. 佐伯和信、他、1991：長崎県松浦市田原遺跡出土の近世人骨。田原遺跡(電尾川地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(松浦市文化財調査報告書第10集)：37-49.70-71.
35. 立志悟朗、1970a：熊本県牛深市桑島出土の江戸時代人上腕骨の人類学的研究。熊本医学会雑誌、44：1137-1150.
36. 立志悟朗、1970b：熊本県牛深市桑島出土の江戸時代人下肢骨の人類学的研究。第1大腿骨について。熊本医学会雑誌、44：1092-1115.
37. 立志悟朗、1970c：熊本県牛深市桑島出土の江戸時代人下肢骨の人類学的研究。第2下腿骨について。熊本医学会雑誌、44：1116-1129.
38. 脇達也、1970：熊本県牛深市桑島出土の江戸時代人頭骨の研究。熊本医学会雑誌、44：1031-1091.



中山SX7 (男性・老年)
(The Nakayama SX7, senile male)



中山SX11 (女性・壮年)
(The Nakayama SX11, young adult male)



中山SX10 (女性・年齢不明)
(The Nakayama SX10, female)



中山SX13 (男性・年齢不明)
(The Nakayama SX13, male)



下肢骨 (Bones of the lower limb)
中山SX19 (男性・壮年)



上肢骨 (Bones of the upper limb)
(The Nakayama SX19, young adult male)



中山遺跡・塩見城全景（南より）



中山遺跡全景



A区
墓地検出状況
(西より)



敷石検出状況
(北西より)



墓穴検出状況
(北西より)



1号墓石



2号墓石



3号墓石



4号墓石



5号墓石



7号墓石



9号墓石



10号墓石



11号墓石



12号墓石



13号墓石



14号墓石



15号墓石



17号墓石



18号墓石



19号墓石



21号墓石



22号墓石



24号墓石



25号墓石



26号墓石



27号墓石



29号墓石



30号墓石



31号墓石



SX19 敷石検出状況（東より）

敷石検出状況（南より）



SX 1



SX 2



SX 4



SX 5



SX 6



SX 11



SX 13. 12



SX 14



SX 17. 18



SX 7. 15



SX 21. 22

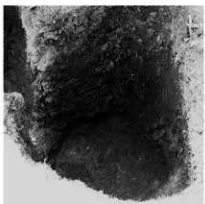
墓穴完掘状況



S X 1 (北より)



S X 3 (北より)



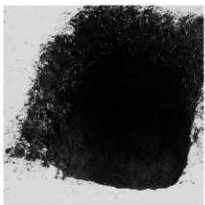
S X 4 (北より)



S X 5 (北より)



S X 6 (北より)



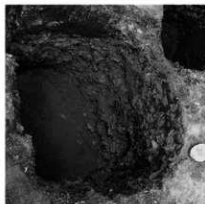
S X 7 (北より)



(左から) S X 10, 11, 9 (北より)



S X 10 (人骨出土状況)



S X 12 (南より)



S X 13 (北より)



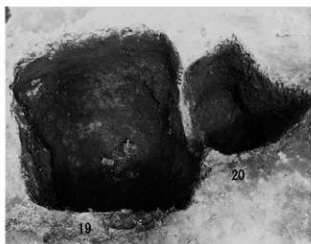
S X 16 (北より)



S X 8. 15 人骨出土状況 (西より)



S X 17 人骨出土状況 (北より)



S X 19. 20 検出状況 (南より)



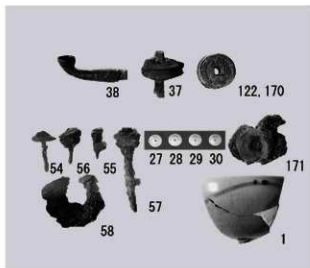
S X 19 遺物・人骨出土状況 (北より)



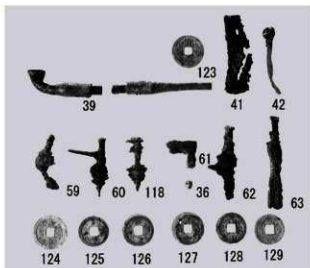
S X 19 人骨出土状況 (北より)



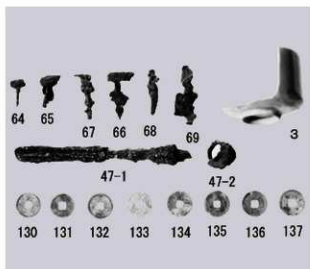
人骨取上調査委託作業風景



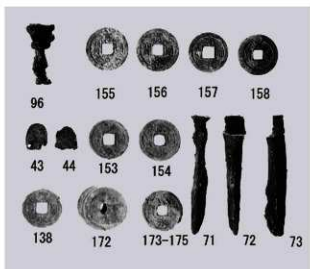
S X 1 · 2 出土遺物



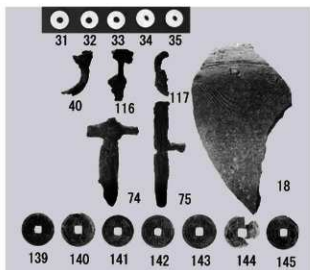
S X 3 · 4 出土遺物



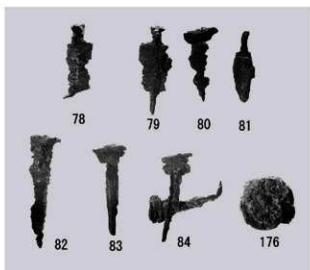
S X 7 出土遺物



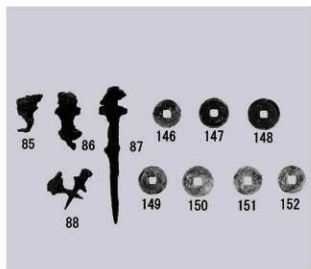
S X 15 · S X 8 出土遺物



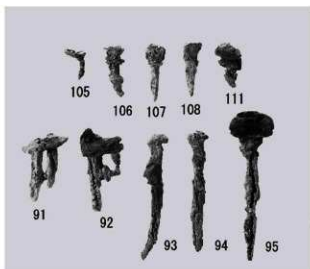
S X 9 出土遺物



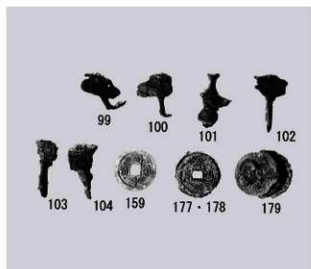
S X 10 出土遺物



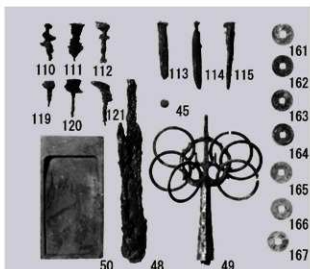
S X 11 出土遺物



S X 18 (上1列) S X 13 出土遺物



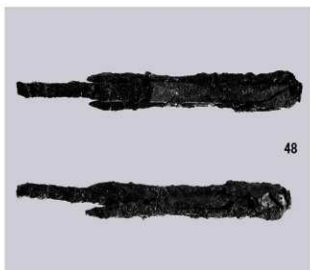
S X 17 出土遺物



S X 18・S X 19 出土遺物 (110, 111はS X 18)



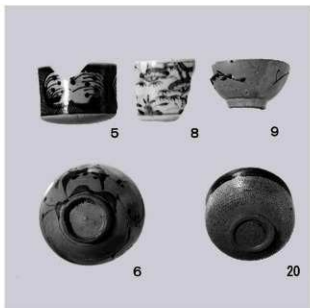
S X 19 出土錫杖



S X 19 出土和鉄・小刀



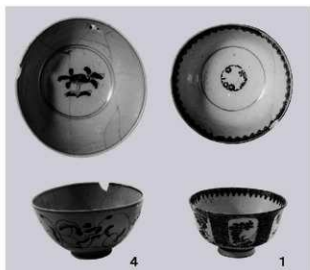
S X 5 · 16 出土陶磁器



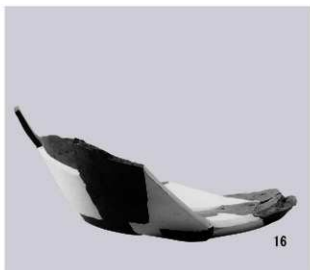
S X 23 出土陶磁器



S X 21 出土土師質小皿



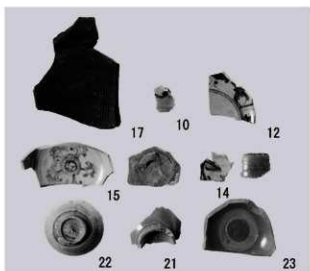
S X 9 · 13 出土陶磁器



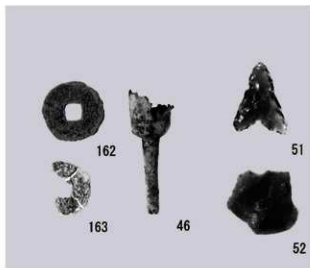
S X 2 · 7 出土陶器壺



S X 2 · 7 出土陶器壺



中山遺跡出土陶磁器



A区出土石器・B区出土金属製品・錢貨



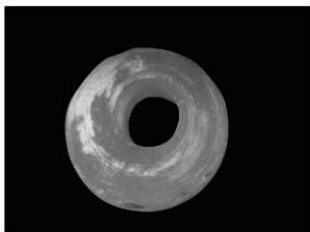
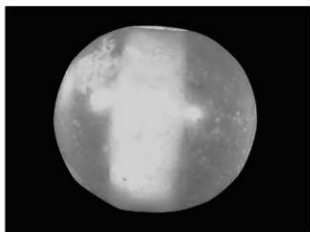
A区出土石白 (53)



C区出土土人形 (26)



S X 8 出土錢貨 (縫維付着) (166)



S X 9 (34), S X 2 (27) 出土數珠玉

報告書抄録

ふりがな	なかやまいせき					
書名	中山遺跡					
副書名	国道327号高速道路道路関連緊急整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書					
シリーズ番号	第93集					
執筆・編集担当者	柳田晴子					
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒880-0212 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地					
発行年月日	2004年10月29日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
なかやまいせき 中山遺跡	ひゅうがしおほみぢしほみ 日向市大字塩見 あざうまのぼろ 字上ノ坊2511 ほか	32° 24' 54" 付近	131° 36' 21" 付近	2002. 7. 29 ～ 2002. 10. 16	1,500㎡	国道327号高速道路道路関連緊急整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物	主な遺物	特記事項	
中山遺跡	墓地	中世 近世・近代	柱穴約100 墓穴23、墓道、井戸	備前壺、青花、唐津碗 墓石、銭貨、煙管、火打金具、数珠玉、和鉄、鍋杖、小刀、釘、長方硯、陶磁器	墓石・数石・墓穴の対応関係が明確に。 S X 19より鍋杖出土	

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第93集

中山遺跡

国道327号高速道路道路関連緊急整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004年10月29日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地

電話 0985-36-1171

<http://www.pref.miyazaki.jp/bunka/maibun/index.html>

印刷 株式会社 宮崎南印刷

〒880-0911 宮崎県宮崎市田吉350-1

電話 0985-51-2745